

(平成 30 年 5 月 18 日受付)

## 旧国道と田辺バイパスの接続について

### ■内容

ハザードマップで新庄地区は大きな被害が予想されていますが、田辺バイパス側では浸水や津波の被害予想はありません。しかし、旧国道側から田辺バイパスへのアクセスは、文里方面からくるT字路先の紀南病院方面に向かうカーブの多い道路・紀伊新庄駅を過ぎたところの新庄小学校へ向かう交差点の2か所しか比較的分かりやすい所がありません。田辺バイパスと比較すると、交通量も多く、車の流れも滞りがちです。例えば、文里方面からのT字路がバイパスへつながるなだらかな橋になっていたら、線路横断の一時停止もなく、数分で津波被害の少ない地域へ避難できるのではないかと思います。田辺バイパスから新庄方面を見渡した時に、バイパスの下側の街が津波で被害に遭われると思うと、なにか対策があるのではないかと感じてしまいます。

### ■回答

市では、近い将来の発生が懸念される南海トラフにおける地震・津波に対して、人命を守ることを最優先として様々な取組を行っています。

津波から逃げ切る対策としては、津波ハザードマップを市内全戸に配布し避難の啓発を行うほか、避難誘導灯や海拔標示板の整備、津波避難ビルの指定などを実施しています。また、津波避難路についても、東日本大震災以降、最大級の津波が発生した場合に浸水するおそれのある地域から浸水のおそれのない高台に避難するための避難路を地域の皆様と協議をしながら整備をしてきました。現在は、市が整備する津波避難路については一定、整備が完了したものと考えていますが、各自主防災会が整備する避難路への助成は継続して行っているところです。

あわせて、都市の骨格として必要な道路を都市計画道路として位置付け、整備を順次行っているところです。今後も、交通状況や整備効果、並びに緊急性などを勘案し、効果的な道路網の整備を図って参りますので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

津波からの避難は、「より遠くへ」ではなく「より高く」、そして、自動車の渋滞などにより避難が遅れることを避けるため、徒歩での避難が原則です。また、一時避難する場所は市の指定緊急避難場所に限らず、まずは少しでも高い場所に避難するなど、津波災害発生時には、最後まで避難をあきらめず、命を守るために最善を尽くしていただきますようお願いいたします。

【防災まちづくり課 地域防災係・都市計画課 計画整備係】